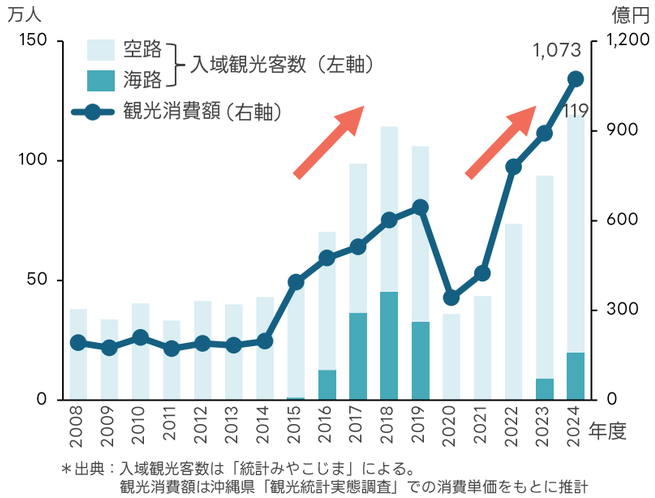
宮古島市の観光の現状

宮古島市の観光の歴史（概略）

1956	宮古空港 開港
1972	本土復帰
1979	下地島空港 開港
1985	第1回全日本トライアスロン宮古島大会開催
1992	池間大橋 開通
1993	プロ野球のキャンプ 初開催
1995	来間大橋 開通
2005	平良市・城辺町・下地町・上野村・伊良部町の合併により、宮古島市誕生
2015	伊良部大橋 開通
2019	下地島空港 新ターミナル開業・国際線の定期便が就航
2020	平良港クルーズ船専用岸壁 供用開始
2025	下地島空港 国際線の定期便が再開

宮古島市の入域観光客数・観光消費額の推移*



＊出典：入域観光客数は「統計みやこじま」による。
観光消費額は沖縄県「観光統計実態調査」での消費単価をもとに推計

住民の主な意見

観光のあり方

- お金を落としてくれるのはありがたいが、その対価が地元民への迷惑では意味がないと感じる
- 観光で働くことを誇りに思えるようになりたい
- コロナ禍で人の移動が止まった世界では、島の経済が成り立たなかった。観光客と住民の共生を考える必要がある。もうけを外に出さないだけでなく、地域に取り入れる考えも必要
- 開発によって風景が変わったことを単に嘆くのではなく、「変わったからこそできること」に目を向け、それを活用して経済を回していく発想が必要
- 専門分野だけで固まるのではなく、ネットワークを構築し、島全体が観光に対して関心を持ち、観光に取り組んでいるという意識が重要

宮古島の独自性・誇り

- 宮古島は独自の自然を有している。どこかの真似ではなく独自性を継承すべき
- 海岸線から見ても、海から見ても、大きな建物に邪魔されない自然の景観がとても魅力的
- 宮古島が全国に知られていることを誇らしく思う。子どもたちが島を大事に思い、伝統や文化を誇らしく思えるよう協力したい
- 宮古島に来ると、アーティストも含めてみんな顔が穏やかになる
- 島の独自性こそが世界に通用する、誇れるものだと信じている
- 地元の人が地元の力を出し、文化や歴史を風化させずにつないでいける地域であってほしい

生活環境

- 住民にとって住みやすい自治体は、観光客にも魅力的にうつるはず
- 昔のように自然豊かで、のんびり、ゆっくりとした島であってほしい
- 観光事業者に島の状況をきちんと理解してもらい、地元貢献の意識が高まるよう働きかける工夫が必要である

環境や景観の保全

- 開発することよりも、今ある海や自然をどれだけ守れるかが大切。建物だらけの島では誰も来なくなる
- もっと花を植えて、住民ボランティア等で美しい宮古島に。何度でも来たいという気持ちを持たせたい
- 島を大切にできるからこその観光。安売りしないでほしい

宮古島の人・交流

- 宮古島の好きなところはたくさんあるが、中でも人とのつながりが他のところと比べて強いところが好きだ
- 来島者が最も言うのは「時間が止まっている」点である。それから、人情味がある点も挙げられる。困っている人を放っておけない、見て見ぬふりができない
- 観光客が、ホテルやレンタカー、タクシーの運転手以外に、宮古島の住民と一人も会わずに帰っている可能性がある。食と音楽の場が、地元の人との接点として大事である
- 宮古島の魅力は、海が綺麗であること以外に見えにくい部分がある。言われて初めてわかる魅力が多い。ガイドや島の人との交流を通じて、その魅力が立体的に観光客に伝わる
- 人との交流を通じてその土地と仲良くなることで、外部の人が愛情を持って島に眼差しを向けてくれる環境ができる

宮古島の文化

- おばあの料理には心がこもっている。それを観光にも出したい
- 最も大きな魅力は、他の地域にないもの、つまり文化的なものである。もっと体験を充実させ、本物に触れることが、観光の価値として非常に重要
- 古い文化に新しい価値を与え、観光客に「荷物にならないお土産」としてクイチャーを覚えて帰ってもらいたい
- 観光客が地元の三線職人を支える仕組みや、お金が職人にいく仕組みが必要
- 地元の人たちが地元の食材や文化を頑張って次の世代に伝えようとする取り組みは、観光客の興味を引き、参加したいと思うきっかけにもなる。まずは自分たちが動くことが大事
- 歴史・文化など海だけでない宮古島の魅力を体験するにあたっては住民のペースを守ることが重要で、しっかりと交渉できるコーディネーターが必要
- 宮古島の音楽・食・芸能などを丸ごと楽しめる場所が必要。宮古の独自性を住民・観光客にしってもらえれば、コミュニケーションも生まれるのではないか

＊観光振興ビジョン策定にあたって実施した以下の結果を抜粋。

- **観光ラウンドテーブル**：住民編、若者編、食・音楽編、島外若者編ののべ9回開催し、計27名が参加）
- **食・音楽関係者ヒアリング**：宮古島市の食・音楽に深く関わる市内外の4名に実施
- **住民アンケート調査**：住民3,000世帯に無作為に配布し、723名が回答

宮古島市観光振興ビジョン

ダイジェスト版

宮古島市

観光振興ビジョンの位置づけ

観光振興ビジョンは、市民が考える観光のあるべき姿をまとめたものです。目標年度は定めず、中長期的に目指す姿としており、観光の方向性や取組がビジョンに近づいているか、常に立ち返るべき拠り所となることを目指しています。

本ビジョンは、宮古島市における観光振興が自然、文化、生活環境、産業などあらゆる分野と関連し、持続可能な観光地域づくりを実現していくための指針となるものです。

宮古島が目指す観光の姿

住む人も訪れる人も笑顔になれる美ぎ島宮古（かぎすま みやーく）

宮古島市が長年育んできた自然・歴史・文化などは、他にはない独自の魅力であり多くの人を惹きつけています。誇りをもってこれらを守っていくとともに、観光振興に活かすことで住民の笑顔（共生・社会経済への波及効果）、観光客の笑顔（満足・交流）につなげ、次の世代に「美ぎ島（かぎすま）」をつないでいきます。

目指す姿を実現するための５つの指針

1 温故知新／未来につなぐ

1. 先人たちから受け継いだ自然・歴史・文化・産業が、住民の豊かな暮らしを支え、次世代にも受け継がれています。
2. 島ならではの人・食・音楽の魅力が時代を超えて国内外から多様な人々を呼び込み、交流が広がっています。
3. 将来を担う若者が、宮古島での暮らしを誇りに感じ、定住・活躍しています。

2 住民と観光客の共生

1. 観光客が宮古島固有の背景や価値観を理解し、尊重しています。
2. 住民と観光客が積極的に交流する場や機会が創出されています。
3. 観光振興が住民生活の質を高め、利便性の向上に寄与しています。
4. 住民が宮古島の魅力や生活に必要なサービスに等しくアクセスできる環境が整備されています。
5. 万が一の備えができていて、住民と観光客の安全が守られています。

3 地域主導による経済循環

1. 観光消費が島内で循環し、住民の所得向上と地域経済の活性化に最大限貢献しています。
2. 観光に関わる多様な人材が育つとともに、地元資本による事業が広がり、人と経済のネットワークが強固になっています。
3. 地域のルールを守り、中長期的な視点で持続的に活動する事業者が活躍できる環境が整備されています。
4. 島の農業・漁業・畜産業と観光の関わりが深まり、食の魅力がさらに発信されています。

4 宮古島の自然・景観を守る

1. 住民、事業者、観光客が一体となり、宮古島の豊かな自然環境を保全し、共存するための責任と役割を共有しています。
2. 開発による自然や生態系への影響を最小化します。
3. 水や生態系を守るための選択・行動を一人ひとりが行っています。
4. 限りある地域資源が適切に管理・保全され、将来世代に引き継がれています。
5. 自然と人の営みの調和を保ちながら、宮古島らしい美しい景観が保全・創出されています。

5 文化と観光の循環をつくる

1. 宮古島の豊かな歴史や多様な文化の持つ価値が再確認され、次世代へ継承されています。
2. 子どもたちが島の文化に触れてその価値を深く理解し、未来の文化の担い手・伝道者として育っています。
3. 島で育まれた文化にふれることが、宮古島の魅力として観光客に認知・実感されています。
4. 観光が伝統文化の魅力を国内外に発信し、継承に貢献しています。